

第2期鴨川市健康福祉推進計画(健康増進計画編)素案に対する委員の意見等及び当該意見等への対応一覧

資料 2

No.	回次	発言者	頁 (原案)	分野	意見等(頁番号については素案のもの)	担当課等	対応(案) (頁番号については原案のもの)
1	第2回(10/23) 健康増進計画策定 委員会	島津清修委員	-	総論	計画書には、市民一人一人・地域・市 がそれぞれ取り組むべきことが分かれて 書かれているが、市がいくら素晴らしい 計画を策定しても、絵に描いた餅になっ てしまうのではないかと危惧する。市民・ 地域はもちろん頑張る、そして鴨川市に は啓蒙活動・支援をお願いしたい。(一)	健康推進課 福祉課	計画案については、2月上旬からパブリックコメントを予定して おり、広く市民の皆様から意見を伺いたいと思います。 また、策定した計画については、ホームページに計画を掲 載し広く周知を図るとともに、概要版を作成し、関係機関等へ の配付をはじめ、各種会議、地区サロン等のあらゆる場 面、健康と福祉の取り組みについて、啓蒙・普及啓発を図 って参ります。
2	第1回(11/13) 健康福祉委員会	榎本豊委員	26	総論	「自助・自立」といっても、一人で自立す るための行政支援も入っている。自助、 共助、公助が縦割りにならないよう、役 割分担イメージ図及び解説によると、誤 解されやすいため一考すべき。(P25)	健康推進課 福祉課	ご指摘のとおり、誤解を招かぬよう、計画書25ページの「役 割分担のイメージ」を修正しました。
3	第1回(11/13) 健康福祉委員会	米林喜男委員	31	総論	地域包括ケア体制について円滑に運 営していけるかの成否は地域ケア会議 が肝である。連携とあわせて地域ケア会 議を有効に機能させる方策が必要。 (P31)	福祉課 健康推進課	委員、ご指摘のとおり、地域包括ケア体制構築のためには、保健・医療・福祉・司法などとの多職種連携が必要となり ます。情報共有や円滑な課題解決のため地域ケア会議の有 効活用が必要であり、参画者や内容など、より充実を図 って参ります。
4	第1回(11/13) 健康福祉委員会	榎本豊委員	4 33	総論	市の現状や実績を踏まえ、課題を出し て肉付けしてほしい。最終的には評価す るので、評価目標を設定して欲しい。 (P33)	健康推進課 福祉課	具体的な進捗管理や評価については、P33頁からP34頁の 記載のとおりですが、大きな考え方を、P4頁の4行目「な お、健康増進計画においては、～」として追記しました。 また、地域福祉計画に関しては、実施計画書を提示させ ていただき、具体的な取り組み内容を示すとともに、併 せて数値化できる項目については評価指標を設定しまし た。
5	第1回(11/13) 健康福祉委員会	米林喜男委員	34	総論	施策・事業にアクセントをつけ、PDCA サイクルにより、単年度で進捗状況を 開示していくほうがよい。(P33)	健康推進課 福祉課	健康増進計画の評価については、PDCAサイクルに基 づき、毎年度、進捗状況を把握し、検証・評価を行うと ともに、その結果を開示して参ります。 また、地域福祉計画についても、実施計画に基づき、毎 年度の実績を把握しますが、検証・評価については、当 該実施計画書に示した時期に行うこととしています。 なお、その結果については、本庁舎1階の市政情報コー ナーに配架、ホームページに掲載するなど、開示して参 ります。

第2期鴨川市健康福祉推進計画(健康増進計画編)素案に対する委員の意見等及び当該意見等への対応一覧

資料 2

No.	回次	発言者	頁 (原案)	分野	意見等(頁番号については素案のもの)	担当課等	対応(案) (頁番号については原案のもの)
6	第2回(10/23) 健康増進計画策定 委員会	根本新太郎委員	36	健康増進	“共助”である地域の主体、地域のイメージが漠然としているのではないのか。どのように考えているのか。(P36)	健康推進課	共助の考え方は、共に助け合うことですが、地域社会での助け合いをイメージするため、計画書の中では、その活動範囲を「地域福祉圏域」と定義付けています。今計画では新たに6層の生活圏域を設定し整理しました。取り組む範囲によって地域を捉え、圏域の範囲が重層的に存在しているというイメージをしていただく必要があると考えています。
7	第2回(10/23) 健康増進計画策定 委員会	米林喜男委員	36	健康増進	行政上の地域と言うのがひとつあり、生活している人にとっては実際に生活している範囲がある。それらに縛られることなく、もの・ことによっては境界を越えることもあるかと理解している。ある程度の柔軟性のある考え方でいいのではないかと思う。地域の定義はなかなか難しい事実だと思う。(P36)	健康推進課	委員ご指摘のとおり、地域をとらえる必要があると考えております。
8	第2回(10/23) 健康増進計画策定 委員会	根本新太郎委員	36	健康増進	“健康づくりに一緒に取り組む仲間・団体ボランティアなどの育成”の取り組みは大変にいいことだと思うが、地域で取り組むにも主体になる人、ボランティア等が必要なわけで、このことはどのようにお考えか。(P36)	健康推進課	健康づくりの取り組みを幅広くとらえ、スポーツ活動団体、ウォーキングに取り組む団体、老人クラブ、市の健康教室がきっかけで軽体操に取り組む団体など、各種活動団体がありますので、今後も、ボランティアの養成やリーダーの育成を含めて、支援していきたいと考えています。
9	第2回(10/23) 健康増進計画策定 委員会	米林喜男委員	36	健康増進	“自助・共助・公助”となっているが、もう一つ日本では“互助”という言葉が盛んに言われている。各地の社会福祉協議会は、“互助”を前提にして活動しているようだが、従来の“互助”は、“共助”の中に包摂されていると考えてよいのか。(P36)	健康推進課 社会福祉協議会	委員ご指摘のとおり、国では「社会保障制度改革推進法」のなかで、「互助」という考え方をしています。市としては、互助に“向こう三軒両隣”の意味を含め、「共助」のなかに含めさせていただきたいと考えています。
10	第1回(11/13) 健康福祉委員会	市川能成委員	39	健康増進	健康増進計画の施策体系について、「7 生活習慣病対策の充実」を重要度等を勘案して、施策体系の3番目位に位置づけて欲しい。(P39)	健康推進課	今回、重点施策を8項目設定していますが、この順番は、国の示す「健康日本21」の項目順に合わせたものですので、優先する順番として並べたものではありません。

第2期鴨川市健康福祉推進計画(健康増進計画編)素案に対する委員の意見等及び当該意見等への対応一覧

資料 2

No.	回次	発言者	頁 (原案)	分野	意見等(頁番号については素案のもの)	担当課等	対応(案) (頁番号については原案のもの)
11	第1回(11/13) 健康福祉委員会	市川能成委員	41	健康増進	健康増進計画の重点項目として、「生活習慣病対策の充実」の中に、「健康寿命の延伸及び啓発」を加えて欲しい。(P41)	健康推進課	ご指摘のとおり、生活習慣病対策の充実として、世代を問わず「健康寿命の延伸と啓発」は大切です。健康日本21の大きな目標でもあり、本市においても同様であり、「健康寿命の延伸と啓発」をもう少し、具体化した形で重点項目に取り入れさせていただきます。
12	第2回(10/23) 健康増進計画策定委員会	島津清修委員	46	健康増進	“成年・壮年期(20～64歳)”には検診・健診の受診率低迷、“高齢期(65歳以上)”には急速な高齢化に伴う認知症・介護予防の取り組みが記載されてはいる。元気な方が急に癌で亡くなってしまう人が何人もいる。その方達に限らず病気になるたら病院に行けばいいと思っているだけで、健診・予防などをする人の方が少ないのが現実ではないか。健康診断や自分達の子供の頃にやっていたラジオ体操などをやってみるなど、市民の関心の薄いところには、もっと市・行政からの啓蒙活動をお願いしたい。(P45)	健康推進課	ご指摘のとおり、各種検診率が伸び悩んでいるなか、自立した生活を営むために、自ら取り組む健康づくり・介護予防の意識を高めていくことが必要です。自ら主体的な取り組みに対して報奨としてのポイントを付与することによって、健康意欲の喚起を図っていく健康マイレージ制度を計画書に位置づけ、市民の関心の薄い方に対しても積極的に働きかけていきたいと考えております。
13	第1回(11/13) 健康福祉委員会	服部克巳委員	68	健康増進	市民が気軽にスポーツに親しめるよう、地域スポーツ活動に対して陸上競技場を解放してはどうか。また、男性は集団的な活動に参加しがらないため、体育館や文化体育館のジムを開放するとともに、運動を取り組める場所や環境を整えてほしい。(P64)	健康推進課 スポーツ振興課	ご指摘のとおり、健康づくりのきっかけとしスポーツを親しむことが大切で、体育館や陸上競技場等を利用していただくことが可能です。 地域スポーツクラブ等の陸上競技場利用に際しては、使用料を2分の1減免するなど、利用しやすい環境づくりに努めるとともに、建設予定の多目的施設内にはトレーニングルームを設置する予定でありますことから、これらの施設を有効活用し、団体利用はもちろん、個人利用も積極的に促進して参ります。
14	第1回(11/13) 健康福祉委員会	服部克巳委員	68	健康増進	公園に高齢者向けの簡単な運動ができる健康遊具を設置してはどうか。	子ども支援課 スポーツ振興課 都市建設課 社会福祉協議会	ご指摘のとおり、身近なところで簡単な運動ができることは大切ですが、現在、市内に、児童遊園、児童公園等で遊具の老朽化等で撤去するケースを鑑みますと、日頃のメンテナンスなど安全面を考慮する必要がありますので、慎重に対応したいと存じます。

第2期鴨川市健康福祉推進計画(健康増進計画編)素案に対する委員の意見等及び当該意見等への対応一覧

資料 2

No.	回次	発言者	頁 (原案)	分野	意見等(頁番号については素案のもの)	担当課等	対応(案) (頁番号については原案のもの)
15	第1回(11/13) 健康福祉委員会	山田裕子委員	68	健康増進	健康づくりを行うためには仲間づくりが重要なため、SNSなどを活用した積極的な情報発信が必要であり、若い世代に働きかける施策の充実を図るべき。 また、元国体選手などの登用によるリーダー及びサポーターの発掘に係る施策への取り組みが必要。(P64)	健康推進課	ご指摘のとおり、健康づくりを進めるためには、仲間を通して行うことも重要だと考えております。健康づくり団体の取り組みなどの情報を市のホームページなどで提供したいと考えております。
16	第1回(11/13) 健康福祉委員会	松本良二委員	68	健康増進	ウォーキング人口が増加しているが、多くの人が行くと皆が始めるという日本人の風潮・気質を利用して、気楽に行える雰囲気づくりをすれば、裾野が広がるのではないかと。(P64)	健康推進課	指摘のとおり、他者が実施しているのを見て自分も実施しようとする意識があるかと思えます。そうした気軽に行うことができる雰囲気づくりに努めたいと考えております。
17	第1回(11/13) 健康福祉委員会	服部克巳委員	69	健康増進	長狭地区における区の組織に「健康部会」がかってあったが、地域スポーツの底辺拡大などといった地域ごとに健康づくりが大切。(P65)	健康推進課	長狭地区には現在も区の役員からなる「健康づくり推進部会」があり、健康だよりの発行など健康づくりの啓発活動をしております。地区によっては、スロトレクラブ活動やラジオ体操をしているグループもあります。また、老人クラブでもゲートボールなど軽スポーツを実施していますので、今後も、軽体操を含めた健康づくりを支援したいと考えております。

第2期鴨川市健康福祉推進計画(健康増進計画編)素案に対する委員の意見等及び当該意見等への対応一覧

資料 2

No.	回次	発言者	頁 (原案)	分野	意見等(頁番号については素案のもの)	担当課等	対応(案) (頁番号については原案のもの)
18	第2回(10/23) 健康増進計画策定 委員会	山下洋介委員	89	健康増進	健康診断は企業では義務化されているので必ず受診するが、個人になると受診する方は毎年でも受診され、関心のない方は未受診のまま数年経過すると言うのが現状。 その中でも、未受診の方への追いかけはされてないのか。“なぜ受けないのか？”…これだけ医療施設が充実した中で、行政は予算の問題もあるのでしょうか、期限を切るだけではなく、地域的に予算を掛けて、出来れば健診受診率を90%にさせるようには出来ないのだろうか。地域ごとに戦略を充実させていったらいいのではないだろうか。 健診は病気を発見してくれるだけではなく、健康であれば本人も家族も安心感が得られるものであると思う。インフルエンザの案内が手元に届いているが、予防接種と同じように健診も家族みんなが受けるものとなるように、行政も検討いただきたい。(P84)	健康推進課	市では、国民健康保険加入を対象に、例年6月の健康診査(集団検診)を実施する他、10月まで施設検診を実施しています。9月に追加案内をすると共に、毎年2月に次年度の検診案内と意向アンケートを実施しています。 アンケート結果によると、受けない方の約6割の方が、医療機関に受診しているためと回答としています。医療機関で利用している方でも、重症化予防の目的で受診勧奨をしている市町村もありますので、国民健康保険担当課と調整を図り、受診率向上について検討してまいりたいと存じます。
19	第2回(10/23) 健康増進計画策定 委員会	米林喜男委員		健康増進	地域とは、カタカナでは“コミュニティ”だが、これもまた表現として問題。ものによっては、ある程度広域であった方がいい場合と、非常に身近な近隣を中心とした方がいい場合があり、考えるものによる。 また、健康意識は、結局、鴨川市全体の人達が健康づくりを空気みたいに感じるような“まち”をつくっていくことが最終的な目標だと思う。抽象的だが健康と言うものに対する意識づくりは、いろいろな機会をつかまえてやらざるを得ない。病気になってからでは遅く、予防が大切。(P90)	健康推進課	ご指摘のとおり、地域づくり、地域福祉という「地域」の概念が抽象的で難しいところがありますが、健康づくりにおきましても、今回新たに6層の生活圏域を設定し整理していますので、個人、地域社会、公共の担い手がそれぞれが役割分担をして、意識づくり、疾病予防の醸成に努めてまいりたいと存じます。

第2期鴨川市健康福祉推進計画(健康増進計画編)素案に対する委員の意見等及び当該意見等への対応一覧

資料 2

No.	回次	発言者	頁 (原案)	分野	意見等(頁番号については素案のもの)	担当課等	対応(案) (頁番号については原案のもの)
20	第1回(11/13) 健康福祉委員会	米林喜男委員	95	健康増進	2020東京オリンピック、パラリンピックを契機とした健康・スポーツ組織の立ち上げを検討してはどうか。(P90)	健康推進課	ご指摘のとおり、2020東京オリンピック、パラリンピックに向けて、健康意識が高まるものと考えております。 市民の主体的な取り組みを支援するために、健康づくり団体や総合型スポーツクラブなどスポーツを通したリーダー役など幅広い年代層を取り込みながら組織として活動していく際に、市としても、関係機関と連携して、ボランティアの養成を含め、支援をしていきたいと考えております。
21	第1回(11/13) 健康福祉委員会	山田裕子委員	96	健康増進	「5.医療機関や大学との協働事業の推進」とあるが、本市でも外国人の増加により、言語が英語だけではなく、ベトナム語やポルトガル語などが必要。 本市には亀田医療大学や城西国際大学観光学部が立地しているので、学生等の協力を仰ぐなど、言語支援いわゆる医学通訳の拡大を図るべき。(P91)	健康推進課	現在、市内に471名(10月31日現在)の外国人の方が在住し、フィリピンや中国、タイ、ベトナムなどからの学生の方が増加傾向にあります。委員ご指摘のとおり、英語以外の言語も表記について、市内の大学等関係機関と協議してまいりたいと考えております。
22	第1回(11/13) 健康福祉委員会	松本良二委員	96	健康増進	「5.医療との連携による取り組みの推進」とあり、医療と介護の連携は重要だが、医療に携わる者は連携が苦手なため、医療中心ではなく介護のかかわりが大切である。(P91)	健康推進課	ご指摘のとおり、健康づくりを推進するためには、医療と介護など多職種との連携が重要だと考えております。各職域の専門職と情報共有化、課題解決のためのミッションを共有しながら、健康福祉の推進に努めてまいりたいと存じます。
23	第1回(11/13) 健康福祉委員会	米林喜男委員	96	健康増進	定住者・来訪者に関わらず対応するとともに、また連携・協力先も大学に留まらず、国際交流協会にも拡大してはどうか。(P91)	健康推進課	ご指摘のとおり、国際交流協会への対応についても検討してまいりたいと考えています。
24	第1回(11/13) 健康福祉委員会	松本良二委員	97	健康増進	「近隣市町の医療・福祉等に関わる病院や専門職等のネットワークづくりを推進します」とあるが、市町それぞれに個性があり、安房地域を一体的に捉えることはかえって難しいと思われるが。(P92)	健康推進課	ご指摘のとおり、健康づくりを推進するためには、医療と介護など多職種との連携が重要だと考えております。新たな6番目の圏域として安房地域を対象とした広域健康福祉圏を設置し、本年度で3回目となる専門職地域連携セミナーを館山市で実施するなど、安房地域の連携を推進していきたいと考えております。